

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年10月1日(2015.10.1)

【公表番号】特表2014-529441(P2014-529441A)

【公表日】平成26年11月13日(2014.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2014-062

【出願番号】特願2014-527211(P2014-527211)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/00 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左心耳を閉塞するためのデバイスであって、左心耳は、該左心耳の口で左心房に開口しており、前記デバイスは、

拡張可能なラチス構造を含み、該拡張可能なラチス構造は、左心耳の口またはその近くに位置決めされるように構成された遠位閉塞部材と、左心耳の内部内に延びるように構成された近位閉塞部材と、前記遠位閉塞部材と前記近位閉塞部材の間のラチスコアと、を有し、前記拡張可能なラチス構造は、

左心耳の組織と接触し、左心耳の組織とシールを形成するように構成された外ラチス層と、

前記外ラチス層によって包囲され、前記ラチス構造の前記遠位閉塞部材に配置されたハブで前記外ラチス層に結合されている内ラチス層と、を含み、

前記内ラチス層は、前記外ラチス層を半径方向外方に駆動し、左心耳の口および／または左心耳の口の遠位側で該内ラチス層を左心耳の組織に押し付けるように構成されている、デバイス。

【請求項 2】

前記遠位閉塞部材は、平らな輪郭を有する、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 3】

前記ラチス構造に結合され、または、前記ラチス構造と一体である拡張可能な保持部材をさらに含む、請求項 2 に記載のデバイス。

【請求項 4】

前記外ラチス層は、外層および内層をさらに含む、請求項 2 に記載のデバイス。

【請求項 5】

前記ハブの少なくとも 50% は、前記ラチス構造によって包囲されている、請求項 2 に記載のデバイス。

【請求項 6】

前記外ラチス層は、第 1 の孔寸法を有し、前記内ラチス層は、前記第 1 の孔寸法よりも大きい第 2 の孔寸法を有する、請求項 2 に記載のデバイス。

【請求項 7】

前記ハブは、遠位ハブであり、前記デバイスは、該デバイスの前記近位閉塞部材に配置

された近位ハブをさらに含む、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 8】

前記ハブは、遠位ハブであり、前記デバイスは、前記外ラチス層に結合された第 1 の近位ハブと、前記内ラチス層に結合された第 2 の近位ハブと、をさらに含む、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 9】

前記遠位閉塞部材は、平らな形状を有し、前記ラチスコアは、円筒状であり、前記近位閉塞部材は、円錐形である、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 10】

前記内ラチス層は、起伏を含む、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 11】

前記遠位閉塞部材は、平らな形状を有し、前記近位閉塞部材は、円錐形である、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 12】

前記ハブは、前記遠位閉塞部材によって実質的に包囲されている、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 13】

前記デバイスの輪郭は、前記外ラチス層の輪郭によって規定される、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 14】

前記外ラチス層は、平らな形状を有し、前記ラチス構造の長手方向軸線と垂直に配置されている、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 15】

前記ハブは、前記遠位閉塞部材と面一である、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 16】

前記ハブは、前記外ラチス層と面一である、請求項 1 に記載のデバイス。